

市民が池田市の魅力をレポートする  
“市民記者”として、地元・池田の  
情報を発信します。

今月の市民記者  
米津 榮次郎さん



広報誌で池田を伝えて今年で15年目。「何か社会に恩返しできたら」と話す、御歳87歳。地球温暖化についての科学的知見を集約し、国際的に広める「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」にも参加。

取材先

洋画家 山下富美子さん



## 感情移入した木の根っこで表す開拓者魂が 奇跡の一本松を通して被災者の共感を呼ぶ



根っこの叫び

北海道夕張郡出身、本市在任の新世紀美術協会会員。道内小中学校の教員を60歳で定年退職したのを機に京都造形芸術大学芸術学部美術科(洋画)に入學し卒業されました。北海道の開拓者魂を込め主に「木の根っこ」をモチーフにした絵画創作を続け、昨年は公募展で通算70作品の入賞・入選を果たします。その一方で岩手県陸前高田市に残る「奇跡の一本松」に想いをはせ、津波に耐える「一本松」に感動賞をあわせて「強い根っこ」を描いた自作絵画

4点を同市に送り被災者に寄り添われました。厳しくも温かい北海道の開拓者魂が「一本松」を通じ復興にこそしむ人たちの共感を呼び、計画中の記念館(仮称)に同作品が展示される予定といわれています。今回は生涯学習に挑戦し続ける山下富美子さんを紹介します。

NHK連続テレビ小説「なつぞら」北海道編で放映された柴田家は、北陸の開拓移民です。不毛の原野が130年ですばらしい地域となり、食料自給自足ができる北海道。ここに至るまでには、壮絶な自然の営みや血のにじむ辛酸と格闘した開拓者魂が原点といわれます。幼い頃から生々しい開拓体験を刻み込んだ山下さんが、開拓者魂を木の根

っこに重ね、自分の道は自分で切り拓くことを決意します。このアクティブな人生は自身の生き方に留まらず、多くの教え子に引き継がれています。平成23年3月11日、東日本大震災が発生しました。この世とは思われない大津波が襲う光景を、鎮魂帰神の境地でテレビを見つめていた山下さん。7万本の松の木が根こそぎ流される中で残った「奇跡の一本松」。想定外の生き抜く力の表象として心を奪われました。私たち人間に凄まじい根性を教えてくれたとしていたたまれず「奇跡の一本松」に感動賞を送ったといっています。山下さんに本市民へのメッセージを聞きました。「私は本市に住んで生きる力のある街を日々実感します。明るく元気で親切、また、やさしくよく笑う市民が多い。ほめることや励ますことに囲まれ、やる気や生きる力が育ちます。私自身の新たな目標も、本市でならば達成できると思っています。北海道の開拓者魂を木の根っこなどに託した作品の制作目標を通算100点(残り25点)に引き上げ、知育・德育・体育をキーワードに生涯学び続けていきたいと考えています。」なお、平成24年に「奇跡の一本松」は枯死が確認され、その後、現地で保存プロジェクトが立ち上がり次善の保存活動を続けています。

お問い合わせ

連絡先

山下 富美子  
☎754・0178